

さらばテキサス、ヒューストン。

どうやらこの街と別れるときが来たようです。

衛星軌道での探索活動に区切りがつけば、地上基地に戻る予定ではありました。1年と数ヶ月、完璧とは言いがたいですが、おおよその成果もまとまりました。あと数ヶ月という期間を想定し、仕事を仕上げる作業に入りました。

毎週末何の気なしにはじめたジョギングですが、撤収となると道端の景色や、どうってこともない草花に愛着を感じます。初夏のブルーボネットが盛りを過ぎたのと入れ替わりに、黄、紫、赤、といった彩りで、こもごもに小さな花がアクセントを添えます。注意してみないと見過ごしてしまいそうな、控えめなたたずまいですが、華奢で可憐な様子には心惹かれます。日本の草花で言えば、ツユクサやヒナギクの類でしょうか。。



この時期、川にかかる橋の軒下には、たくさんのツバメが巣をかけています。川面を飛び交う羽虫を餌食にしているのでしょうか。雛を養っている様子がよくわかります。



夏至の前後は午前中の早いうちから気温が上昇しますので、ジョギングのタイミングを逃すと後がありません。まさにその夏至の土曜日、夕方 6 時近くに家を出発しました。いつもの水路にはつがいの鴨がのんびり歩いていました。



一方、とおるさんの体調はあっという間に最低ラインへ急降下です。昼間のかんかん照りの余熱で道路も空気も暑く、始末に負えません。ジョギングはあっさりあきらめ、散歩に徹することになりました。いつも見慣れた風景ですが、日も暮れると景色が変わります。



少し暮れかかったころ、川土手の茂みには野うさぎが出没しました。画面真ん中に、目玉と耳だけ見え隠れしていますが、花でも咲いているように見え、うまくカムフラージュしています。



アパートに帰り着くころには、お月様が上り始めました。帰宅後、ご飯を作る体力も残っておりませんので、近くの本屋へ直行。真夏のマルガリータは、ひからびた身体にじゅわっと染みわたります。ちなみに、マルガリータの成分はテキーラ、オレンジキュラソー、ライムジュース。辛めにするか、甘めにするか、好みで調整。お店のマルガリータはコップのふちに粒塩がまぶしてあり、まことに美味です。栴酒の塩みたいなもんですな。



こうしてテキサスの夏の夜は暮れ行くのでした。(2013年夏至から7月上旬にかけて)

さらばヒューストン、といいつつ寄り道をいくつかいたしました。

7月に入り、独立記念日のお休みに、同僚とお隣のサンアントニオ市まで足を伸ばしてみました。ヒューストンからは車で真っ直ぐ西に約3時間。ジョン・ウエイン出演の映画で有名な、「アラモ砦」があります。彼はデビー・クロケット役でした。写真のレリーフ真ん中に立つ人物がその人です。右横はトラビス大佐。時は1836年、テキサス領をめぐる、メキシコ軍と交戦のさなか、かの砦に孤立したこれらテキサス軍人のすべてが玉砕という壮絶なエピソードです。時を経てなおも、南部っ子の瞳も濡らす英雄詩となりました。



独立記念の休日とあって、市内には観光客がたくさん集っていました。町の中心部には環状の水路が巡り、その両岸には数多くのレストランやバー、高級ホテルが軒を並べています。

スペイン人が新大陸を闊歩したころ、「el Camino Real : 王の道」と名づけた街道沿いに、数多くのミッション（伝道所）を建設しました。カリフォルニア沿岸の主要都市にはそれぞれ、美しいミッションがあります。その昔とおるさんが暮らしたサンタバーバラにも有名なミッションがありました。サンアントニオ市も、テキサス東部平原から中南米の隘路につながる、スペイン古街道に開けた門前都市です。市街を出て南に向かうと、カリフォルニアにもひけをとらない、古風なミッションが点々と続きます。中でもこれは見事だと思った建物を写真に収めました。閉館までまだ時間があつたので、中を見せてもらいました。色彩豊かな美しい祭壇です。



独立記念日の翌週、ワークショップと学会が立て続けにありました。2週間強ほどヒューストンを空け、オハイオ州デイトン市、マサチューセッツ州はボストンへ、と参りました。

デイトンは世界初の動力飛行機を実現したライト兄弟の故郷です。出張先は米空軍研究所関連の施設とあって、会議終了後の会食では、このライト兄弟のエピソードを紹介してくれました。特段の高等教育を受けず、世界中が注目する技術開発を達成したことはまさに快挙である、とのこと。街を代表するヒーロー誕生の舞台裏には、とおるさんも興味津々でした。そのむかし学研社の月間教材に、真崎守さん（確かこのような表記だった）という方の作品で、ダヴィンチ、リリエントール、ライト兄弟、リンドバーグの大西洋横断、レッドバロンの活躍、ゼロ戦開発秘話・・・という一連の航空技術史をわかりやすく記述した漫画がありました。これを思い出しました。会議後、ホテルの近くの川べりを散策しました。静かな街に夏の陽が暮れ、良い思い出になりました。



ボストンでの学会は、町の中心部で行われました。デイトンから一転、ビジネスマンやオフィスレディが闊歩する素敵な町です。テキサスとは違うわい。会議のはねたある夕方、上司と一緒に散歩に出ました。ボストンを代表するいくつかのモニュメントを、と思い、おのぼりさんショットを2枚。ボストンの港を望む時計台と、サミュエルアダムスの銅像。いまでも、ボストン・ラガーのラベルを飾る超有名人ですね。



とおるさんのお仕事は無事終了。すっかり学会発表などからは遠ざかっていたのですが、今回実に 20 年ぶりに口頭での発表をおこないました。とおるさんの頃は、OHP シートか、スライドを使っただけの報告でしたね。いまはパワーポイントで、カラフルにできる。発表の一日前まで修正が利く、というわけですっかり様変わり。もちろん、社内報告や、お客さんへの説明で慣れてはいましたが、大きな会議場での、英語による報告は久しぶりです。まだ駆け出しの学生のころ、初陣では膝頭がぶるったのを思い出します。

この街に来たのは何年ぶりだか。ロブスター、ビール、港のイタリアン、テレビ番組で有名な「チアーズ・バー」、などなど。MIT のキャンパスに初めて来たのは 1990 年ごろの冬、暖かいカリフォルニアから飛んできてびっくり仰天。街路は凍てつき、注意しないと転んで怪我をしそうでした。街行く人たちが皆、ふかふかの正ちゃん帽を被っているの、聞いたところ、「これさえあれば万が一のとき大事な頭を守れるさ」とのこと。妙に感心した覚えがありました。

打って変わって夏のボストン、意外と蒸し暑い。今年は特別なのかもしれません。さまざまなことを思い出しながら、一路テキサスへ向いました。(2013 年 7 月下旬)

寄り道をしているうちに 7 月が終わってしまいました。

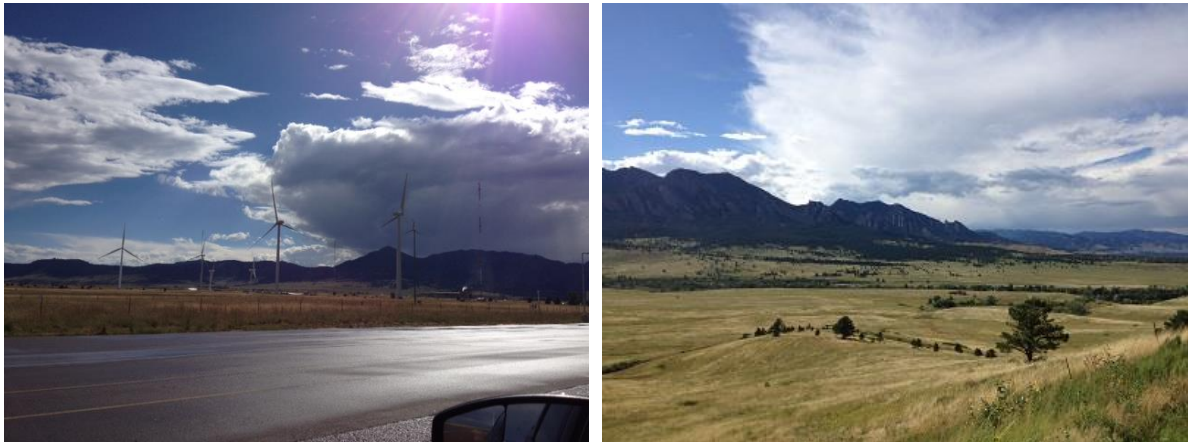
川べりのジョギングコース越しにみる真夏の空・8 月のテキサス。



中旬のある日、お仕事でコロラド州はボルダー市を一泊訪問しました。新エネルギーの研究を行う米国政府の研究所です。行き違いで、外国人としての入館許可を登録していなかったため、施設には入れず、しょう

がないのでホテルからウェブ会議で参加。ウェブ上で資料を説明、ということになりました。

しかし遠くから、その研究施設の目玉である風力発電機を拝むことができました。ボードラーの谷間を吹き抜ける風を受け、ゆっくりと回る巨大プロペラはなかなか壮観でした。ドライブの途中で山脈を一望する丘に車を止め、しばしこの大景観に見とれました。



実験棟に戻ってきてみると、真夏の空の下、鳩が妙なところに巣をかけていました。ちいさな卵が 2 個。よりによってなんでこんなところに。液体窒素を運びに来た業者が困っていました。そっと巣をどけ、別な場所に退避させたり、こちらも応援いたしました。ある晩、大雨と風が吹きぬけ、無残にも巣は微塵に吹き飛ばしてしまいました。親鳩はしばらくこのあたりを探し迷い、疲れ果てたのでしょうか、建物の隅でひっそりと息絶えていました。少し悲しいエピソードです。



てな具合に、どうということもない日々が過ぎてゆきます。何かやり残したことはないかな・・・と考え、キャンプを敢行しました。3月に家族と見に行った、ヒューストン市北辺の森林公園にある、「Double Lake Recreational Area」にキャンプグラウンドがあることを覚えていました。気軽にテントが張れそうなところで、一泊\$18ドルと安いし、町から1時間強と近距離です。今まで自分でキャンプなんかやったことはないけど、要するに火が起これば、食事とコーヒーが作れるし、あとはウイスキーとビールがあれば最高、と安易に考えました。

思い立ったが吉日。二人用の小さなテント、直火にかけられそうなステンレスカップ、LEDランプ、などを買集め、レッツゴー・キャンプ。Double Lake に至る道、続く林道と相変わらずの青い空、白い雲。



というわけで、現地へ来てしまいました。真昼は避け、夕方の到着。テントは簡単に張れて、暖炉用にあまっていた薪をキャンプファイヤー用のスポットにくべ、準備完了。あたりは松の木が群生し、枯れた松葉がそこらじゅうに落ちています。めらめら燃える。夏の日照りで枯れ枝もたくさん。あっという間に火がつきました。



料理は、冷蔵庫に余っていたソーセージとトマトをアルミ製の皿に盛り、炙っただけですがこれが実にうまい。ウイスキーを傾け、にわかカウボーイの心境です。人間、焚き火さえあれば怖いものなしだ！とつぶやきつつ、独りでご機嫌に酔っ払っておりましたところ、エリアの警備員が巡回に来ました。ちゃんと入り口で料金 18 ドルを払った旨、半片を提示。「御機嫌よう、良い夜を！」と去ってゆきましたが、ちゃんとお金を払ったことはどうやって確認するんだろう。（とおるさんはちゃんと払いました！）



Welcome to the Double Lake Campground	
SCHEDULE OF FEES	
Camping Fees:	
Primitive Campsite	\$18.00
Hook-Ups (water, electric)	\$10.00
Hook-Ups (water, electric, sewer)	\$12.00
Group Campsites A, B, F, I	\$25.00
Group Campsites C, D, E, G, H, J	\$20.00
Extra Vehicle (per night)	\$9.00
Day Use Fees:	
Per Vehicle (up to 5 persons)	\$6.00
Extra Persons, Walk-in, Cycle	\$1.00
Dump Station Use	\$5.00
Golden Age/Access Discount valid for cardholder only.	

そうこうしているうちに、持参した薪は半分尽き、炎も力を失い、夜はしじまにトツプリと暮れはじめ、あわててテント内に退散。焚き火が無いと、心細いホモサピエンスだと実感しました。LED ライトじゃ熊は逃げないよね。この地域に危険な動物が居なくてよかった。北のイエローストン公園なんかでは、テント一枚のアウトドアは推奨されていないらしい、と後で知りました。まったく、素人はこれだから。

隣の大学生と思しき一連は、にぎやか。女の子の声もして、楽しそうですが、こちらは孤独なカウボーイの気分になりたいところ、若干迷惑ではあります。これら若者がさすがに疲れて静かになった頃、テント内で耳を澄ませていたら、森の息吹のようなものが聞こえてきました。虫の声、梢の鳴る音、遠くから響く雷の音。幸い雷雨はこちらへは寄ってきませんでした。小動物か、鳥か、松の落ち葉を踏む音がし、テントの裾を嗅ぐ鼻息のような気配がありました。静かに時がながれるうちに、とおるさんも眠くなりました。

次の朝、テントの中で目が覚めたら、朝露であたりは湿っぽくなっていました。木々の間から陽が差し込み、再び明るい世界に。



さて、コーヒーでも沸かすか。手回し式のコーヒーグラインダーで豆をひき、準備をしました。映画を見ると、カウボーイたちは、沸いたお湯の中に手づかみでコーヒー粉を入れている。これをまねしてみることにしました。ところが、肝心のお湯がなかなか沸かない。湿っている所為か、薪に火も付きにくい。おまけに、バーベキューグリルを隔てていると、普通の焚き火ではどうも火力が足りないらしい。ぐつぐつ、というわけには行かず、適当に湯気が出てきたところで、粉をひとつかみ、放り込みました。火からおろし、見てみると、煮えたコーヒー粉は下に沈み、コーヒー色の上澄みが出来上がっています。これをコップに注ぎ、すすってみました。美味し！の一言です。コーヒーひと口すするのに、1 時間以上かかっちゃった。日曜の朝、独りで気兼ねない小旅行ゆえ、誰も文句を言う人はいませんが、家族や友人も一緒だったらこんなに悠長にはしてられないでしょうね。単独旅行の醍醐味でもあります。

結局、この Double Lake へは、下見の半日と、最初のキャンプ泊に味をしめ、2 回目のキャンプ泊も敢行しました。2 回目のディナーは、牛肉ひと切れをステーキに、ズッキーニ 1 本とタマネギ 1 個を刻んでオリーブオイル炒めにし、とおるさんの的に豪華な一晚といたしました。



次の朝はもちろんコーヒー。前の晩の焚き火の煤煙と、ステーキから飛んだ獣脂で、髪の毛も顔面もべとべと。帰宅してからシャワーで洗い流すまでステーキ臭に包まれていました。やっぱり単独行ならではのこと。おまけに、その昔のテキサスの荒野だったら、コヨーテなんか寄ってきて大変だったでしょうな。だからカウボーイたちもパンと豆、干し肉などで簡単に食事を済ませていたはずですよ。

ともかくこれが最後、ということで、景色を堪能し、かの地を後にしました。Double Lake の空には大きな入道雲がかかり、スケール雄大の自然に親しむことができました。



このまま、まっすぐ家に帰るか、どうか、ということで、iPhone で地図を確認。森林の北東にある「Lake Livingston」を拝みにゆくことにしました。地図上で見る大きさは、ヒューストン市環状線が囲む面積の半分

近くはあろうか、というもの。実際に目で見てみることにしました。

湖を一望する Point Blank という岬で、ようやく湖畔に出ました。でかい！の一言。折から湖をわたる強い風にあおられて波頭がたち、波止場にぶちあたって水しぶきまで上げています。まるで海辺のよう。



この岬を過ぎ、しばらく行くと、湖のくびれをまたぐ長い橋に出会いました。これを気持ちよくすっ飛ばし、対岸に行き着くと、橋の袂によさげなマリーナと、レストランがありました。ここでビールを一杯と、テキサス風のハンバーガーを思わず注文。前の晩牛肉一切れ平らげた後だっちゃんのに。でも、美味しくいただきました。これでしばらく肉はいいや。



ともかく、黒のキャリバー君に鞭をくれ、少しですが遠出できて良かった。この車ともいずれお別れだ。思い残すことはなかろう。（2013年8月下旬）

いよいよテキサス・ヒューストンに別れを告げる日が近づいてきました。

とおるさんへ地上への帰還命令が正式に降りたのは少し前です。1年数ヶ月で、衛星軌道を離脱することになりました。

こちらでかき集めたものを処分しなきゃ。一回ぐらいは、黒のキャリバー君を駆って、アメリカ大陸の横断を試みたい、などと画策していたのですが、かなわぬ夢となりました。しかし、20ウン年前、西海岸ループ（サンタバーバラを出て、ラスベガス（グランドキャニオン）・ソルトレイク・グレイシャー・イエローストン・ポートランド・サンフランシスコ・太平洋岸を南下）を2週間かけて経巡った頃とは体力も気力も目減りしています。まあ、夢にしておこう。

ということで、くだんの愛車は昨年購入したレンタカー屋さんに売り返すことに。快く応じてくれ、見積りもサクッと出てきました。ネゴることはせず、さっぱり合意。



いっぽう、アパートはトラブルになりました。今年4月末のリース契約更新時に、月極め条件に切り替えたはずなのに、書類上は「年間契約」になっていることが発覚。どうやら、月ごとのキャンセル条件が、新しい契約書に移行していなかったらしい。この点、どうもあいまいだったので、何回か確認交渉したのですが、その相手（マネージャー）はとっくの昔に退職してしまっておりました。とおるさんが想定していた内容は、何も根拠のない口約束だったということになってしまいました。

このアパート、日々の雑務をこなす現地オフィスと、元締め本社（別な州）とがばらばらに離れており、意思疎通も悪い。契約内容は別州の本社が管理しており、現地での交渉内容が届いていなかった、ということのようです。

その場で散々苦情を申し立てましたが、現地スタッフには権限がなく埒がききません。あーだこーだと言っているすぐ隣で、これまた途方に暮れている若者が居ます。ワンベッドルームにすぐに切り替えたいののだが、タイミングの良く空いている物件が無い、どうしよう、なんとかしてくれ、という話のようです。これを小耳に挟んだとおるさんは、思い切ってこの若者に歩み寄り、「Excuse me, what if I propose you and switch my room to yours, will it help?」と話しかけました。

言ってみるもんです。このテキサスの若者、メディカルセンターで勉学にいそしむジェントルマンです。「それは大変ありがたい。ぜひ部屋を見せて欲しいので、お願いします。」ということで、一晩おいて翌日の土曜日OKの返事があり、話がまとまりました。感謝感激。彼が現れねばどうなっていたことやら。先方も渡りに船だったようで、逆に感謝されました。やきもきしていた心配の種がなくなり、思わずキャンプに出かけてしまったのは、この日の夕方のことでした。

あとは、車の保険、電気、電話とインターネットの解約。これに伴い、残額の支払い請求書や連絡は米国内に郵送されてくるので、アパートを出た後の受け取りが大変です。少し余裕を見て、10日ぐらいホテル暮らしをすることにしておいたので、なんとか郵便物を受け取れそうです。

支払い、あるいは返金受け取り、のため、銀行口座は当地に残しておかねばなりません。日本へ帰ってから後日、一部送金あるいは口座解約、などの手続きができるかどうか、銀行の受付と話をしたところ、丁寧に応じてくれました。後日処理が可能ないように、今時点で、日本の口座への送金実績（および必要な個人認証番号）を作っておけばよさそうだ、ということのようです。

ということで、新規加入・開始時よりも、解約するほうが面倒だということが良くわかりました。やめるときは書面と本人確認がまだまだ必要、ということで、ネットでのやり取りでは済まないことも色々あります。こんなときは、口頭・面談しかありません。

お次は家具。国内での異動を想定していたのですが、アパート付属の巨大ゴミ箱に放り込むか、売っ払うか、せねばなりません。1年ちよつとの間に愛着も湧きましたので、何とか引き取る方を探すことにしました。この点ではインターネットのありがたみを実感しました。ヒューストンに暮らす日本人のご当地なびサイトに、

「売ります・買います」欄があるのを発見。早速、投稿してみましたところ、幸いにも色々な方からお返事をいただき、個別にお届けしたり、引き取りに来て頂いたりしました。ちなみに、IKEA の家具は、分解組み立てが可能なので、自分でも配送可能。お引取りになる方に多少手伝っていただくことで、重いものでも無事ハンドリングできました。

この一件で、新しくお知り合いになっていただいた方もできました。せっかくお話できる人たちも増えたのですが、そろそろお暇しなければ。

ぐずぐずしていたのですが、引越搬送の日程や、帰国便も決まりました。車も売って、レンタカーに切り替え、部屋の中には机も椅子もベッドもありませんので、先日敢行したキャンプを屋内でやっているのと変わりありません。荷物搬出後はしばらくホテル住まいです。



本日これから、いよいよオーディオ類をまとめてかかります。輸送中に壊れないよう、手当てしなきゃ。ケーブル類をはずし、スピーカーボックスをばらし、DC ターンテーブルを養生し。。そろそろ、分解撤収作業に入りましょう。

こんなことを書いているうち、マーラー2 番「復活」がターンテーブル上フィナーレをむかえたところです。アパートの中で気兼ねなく鳴らしていたことも、よき思い出となるでしょう。下の写真は、ヒューストンのとおるさん家オーディオの、解体前、解体後、の姿でございます。つい最近、Pyle Audio 製のホーンツイーターを追加したところです。ボーカルの発音、弦のこすれ、ハイハットやブラッシングなどが明瞭になりました。



最後に、Elton John のヒット曲「Rocket man」をかけておこう。この歌、なんだかヒューストンでのとおるさんの仕事や暮らしに、ぴったりでした。

..... いざさらば、ヒューストン。(2013年9月)